

エコスタディ 「ごみ博士になろう」

■ プログラムのねらい

くらしの中で出される様々な“ごみ”について知る体験活動をとおして、環境を守るために自分たちにもできることを考えさせる。

■ 対象学年：小学校4年生

■ 関連教科：4年生 社会科「住みよいくらしをつくる」

■ プログラムの概要：くらしの中のごみについて考える、体験型プログラムです。



社会科に関連させたプログラムの活用例と発展例

社会科学習

くらしの中のごみ
＜3時間＞

自分たちが、生活の中でたくさんのごみを出していることに気づく。
【学習活動】
家庭で出す、ごみの量や種類、ごみの出し方について調べる。

ごみのゆくえを調べよう
＜3時間＞

回収の方法や、回収されたごみのゆくえについて知る。
【学習活動】
ごみの回収方法や、ごみの種類による処理方法の違いを調べる。

リサイクルについて調べよう
＜8時間＞

ごみが資源として、再利用されることを知る。
【学習活動】
リサイクルや3Rについて調べる。

環境学習

■ ごみ博士になろう
地域のごみについて知る

■ ごみ分別ゲーム
分別の方法を学ぶ

■ ごみ減量作戦
ごみを減らすための、工夫を考える。

ごみ博士
クイズ大会

■ プログラムの準備

■ 概要

くらしや地域のごみについて、子どもたちがウォッチングやインタビューをして調べ、評価するプログラムです。清掃活動も取り入れられます。社会科で学ぶごみの学習を、体験的な活動をとおして深めます。

■ 準備

1. 協力者へ依頼する

子どもたちが安全に校外活動をするためには、他の先生や保護者、地域のサポーターの方などの協力が必要です。地域の環境によっても異なりますが、子ども5人に対して大人1人が引率できる程度に、協力をお願いしておきましょう。

2. ごみの分別の方法を調べる

地域によって、ごみの分別とその処理方法が違います。事前に調べておきましょう。

3. ポイントを決め、班分けをする

公園、駅前、浜辺や川、ごみ収集場所、スーパー
マーケットやコンビニエンスストアなど、調べるポイントを決めて担当する班を割り振りします。

4. 評価シートを作る

子どもたちが、各ポイントのごみについて調べたことを書いたり、評価を記録したりするシートを作成します。(P4参照)



5. 画板、筆記用具、※デジタルカメラ

シート記入用です。デジタルカメラで、各ポイントの様子を記録しておく、まとめや発表の時に役立ちます。

6. 清掃道具

清掃活動も取り入れる場合は、ごみ袋、軍手、火ばさみ等を用意しましょう。また、清掃活動用の記録シート(P5参照)を作成しておく、様々な気づきが期待できます。

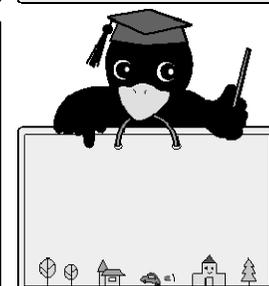
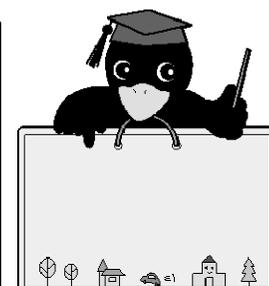
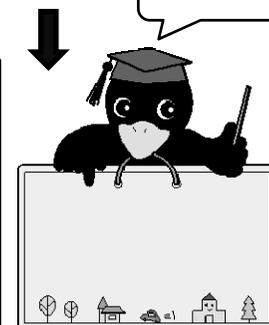
★ ごみ博士 ★ チェックシート

■ 調べた場所: _____

☆ごみについて、調べたことや発見したことを書こう。

☆調べたことや発見したことが、環境に良いと思ったら 😊、悪いと思ったら ☹️ をつけよう。

どっちかな？



“ポイすてごみ” きろくシート

■ 調べた場所:

ごみを見つけたり拾ったりしたら、ごみの量のらんに棒を1本ずつ書いて、「正」という字にしていこう。
「正」の一文字が、「5」をあらわすよ。

ごみの種類	ごみの量	合計
もえる		
もえない		
びん		
カン		
ペットボトル		
プラスチック		
紙		
そのほか		



プログラムの進め方

■ 進め方の手順

■ 支援の言葉（参考）

〔準備〕

- 評価シート、ポイ捨てごみ記録シート、画板、デジカメを、各人か班に配る。
- ※清掃活動もおこなう場合は、清掃道具も配る。

1. 導入…（例）

- ・社会科でおこなった家庭のごみ調べのふりかえりと、今回の活動の内容を説明する。
- ・各班が調べる場所を、指示する。

①きょうは、私たちの住んでいる町の、ごみについて調べてみましょう。班に分かれて、いろいろな場所を調べます。まず、○班は、△△……に行きます。

2. やり方の説明

- ・見たり聞いたりして発見したことを、評価シートに書き、そのことが、環境にとって良いか悪いか、評価してマークをつける。
- ・ポイ捨てのごみがあったら、その種類と数量をポイ捨てごみ記録シートに書く。

②次にそれぞれの場所で、ごみがどのように集められているかや、散らばっていたなど、何でもかまいませんので、みなさんが見たり聞いたりして、ごみについて発見したことを評価シートに書きましょう。

そして、そのことが環境にとって良いことなのか悪いことなのかを考えて、マークをつけてください。

また、その場所にもしポイ捨てごみなどがあつたら、その種類と見つけた数をポイ捨てごみ記録シートに書いておきましょう。

3. 協力者の紹介と、諸注意

- ・協力者の紹介をする。
 - ・活動についての、諸注意をする。
 - ・インタビューの時のマナーについて説明する。
- ※清掃活動をおこなう場合は、清掃活動についての諸注意(P5参照)をする。



- ③学校の外に出たら、次のことを必ずまもりましょう。
- ・道路では、自動車や自転車に注意すること。
 - ・道路では、走ったりふざけたりしないこと。
 - ・ほかの人の迷惑にならないようにすること。
 - ・大人の人に言うことを、よく聞くこと。
 - ・気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったら大人の人に言うこと。
- また、ごみのことについて誰かにインタビューをする時には、次のことに注意しましょう。
- ・礼儀正しく挨拶をする。
 - ・聞きたいことを、まとめておく。
 - ・忘れずに、お礼を言う。

4. 実施

- ・指定のポイントに、引率者が誘導する。
 - ・引率者は、インタビューの補助をする。
- ※清掃活動をする場合は、場所を指定したポイントの周辺に限定する。

5. まとめ

班ごとに、以下についてまとめさせましょう。----->

- ・発見したこと。
- ・それが、環境にどうかの評価とその理由。
- ・悪い評価をしたことについて、どのようにすれば良くなるかの意見。

- ⑤それでは、みなさんが調べてきたことを発表してもらいますので、班ごとに次の3つの点について、まとめてください。
- ・どのようなことを、発見したか？
 - ・それは、環境にとって良いことか悪いことかと、その理由。
 - ・環境にとって悪いと思ったことを、どうすれば良くなると思うか？また、自分たちにもできることはあるか？

6. 発表

- ・班ごとに発表し、調べたことを共有化する。
- ・質疑応答を受ける。(新たな課題の発見や学習の発展につながります)

■まとめ: 私たちの住んでいる町のごみは、どうでしたか? 環境のことを考えて、捨てられていましたか? でも、大切なのは、ごみになるものをできる限り減らして、資源やエネルギーの無駄使いを無くすことです。ごみを減らして、環境にやさしく住みよい町にするために、みんなができることを考えてみてください。

関連する情報

身近なごみの問題だけでなく、極地のごみや廃棄された衛星による宇宙のごみなど、ごみ問題は地球環境に大きな影響を及ぼしています。様々な情報を与えることで、子どもたちの課題が広がります。

■ 野生生物への影響について

ポイ捨てのごみが、野生生物に被害を与えています。廃棄された釣り糸や魚網が水鳥の体にかまったり、海亀や海鳥が、海に浮遊するプラスチックごみやビニール袋を餌と間違えて飲み込み、摂食できなくなっているという例が報告されています。他にもそのようなことがないか、調べてみましょう。



■ 「循環型社会」の形成について

リデュース、リユース、リサイクルの「3R」は子どもたちも知っていますが、循環型の社会の形成を目指して、現在はRefuse(リフューズ／不要なものを買わない、もらわない)、Repair(リペア／修理しながら長く使う)を加えた、「5R」が提唱されています。

「5R」の優先順位は・・・

- ①リフューズ、②リデュース、③リユース、④リペア、⑤リサイクルの順番です。

■ 落ち葉について

多くの場合、落ち葉をごみとして処理していますが、堆肥として再利用している学校や公園、農地もあります。

昔の里山の暮らしなどを説明することで、子どもたちの新しい気付きがあるかもしれません。学校で、堆肥作りを試みるのもおもしろいでしょう。



■ 清掃活動について

清掃活動をする場合は、子どもたちに、以下の点について注意をおきましょう。

- ・ごみを、素手で触らない。
- ・中身の入っている箱や瓶や缶、ペットボトルは拾わない。
- ・割れたガラスなど、危険なものは拾わない。
- ・何か分からない物は、拾わないか大人の人に聞く。





プログラムの発展「ごみ博士！クイズ大会」

調べたことを発信したり共有したりする場として、各班で調べたことを、クイズにして出し合うクイズ大会をしてみましょう。クイズの問題や答えを作るために、子どもたちが考えたり調べたりすることで、さらに学習は深まります。

クイズの形式は〇×か3択に統一して、得点表などを作り、誰が一番ごみのことについて詳しいか、チャンピオンを決めてもおもしろいかもしれません。

<クイズ大会実施例>

1. 問題と答えを作る

- ・調べたことの中で、みんなに伝えたいことを決める。
- ・それについて、3択で問題を作る。
- ・答えと、解説を考える。

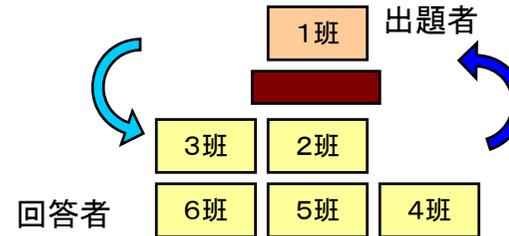
2. 班全員の役割を決める

※1班6人の場合

- ・問題と答えを作る（全員）
- ・問題を読む（A君）
- ・3択の1番目を読む(Bさん)
- ・3択の2番目を読む(C君)
- ・3択の3番目を読む(Dさん)
- ・正解を発表する（E君）
- ・解説する（Fさん）

3. クイズ大会をおこなう

各班が交互に出題者と回答者になる。



にんていしょ

認定書

殿



クイズ大会の結果から、あなたがごみ博士であることを認定します。

答え

ポイント

答えがあっていたら、○をつけよう！

〇をつけたポイントの合計を書く⇒ 合計 ポイント



協力: 杉並区立杉並第三小学校
主幹 吉田佳子